

令和5（2023）年度
“住民主体”の地域支え合い推進フォーラム in とちぎ
開催要項

1 趣旨

「団塊の世代」すべてが75歳以上となる2025年が間近となり、さらにその先の「団塊ジュニア世代」が65歳以上となる2040年に向け、いくつになっても住み慣れた地域で自分らしい生活ができるよう住まい、医療、介護、介護予防・生活支援が一体的に提供される「地域包括ケアシステム」の構築が進められています。

今後の超高齢社会の課題に対応していくためには、医療、介護の専門職の取組に加え、住民一人ひとりが地域を取り巻く状況や課題を共有し、自分らしい暮らしの実現に向けて主体的に活動し、地域で支え合う地域住民による「お互いさま」の取組がより求められています。

本フォーラムは、県内の“住民主体”による支え合いの活動実践を交え、地域住民の身近で自然な支え合いの大切さを学び、広げて行くことを目的に開催します。

2 主催

栃木県、社会福祉法人栃木県社会福祉協議会

3 日時

令和5（2023）年11月6日（月）13時30分～16時30分（13時から受付開始）

4 開催場所

とちぎ福祉プラザ 1階 多目的ホール（栃木県宇都宮市若草1-10-6）

5 参加対象/定員

地域の支え合い、助け合い活動に興味関心のある方等 / 150人（先着）

一般県民、生活支援コーディネーター、協議体構成メンバー、社会福祉施設、企業、NPO、市町行政、社会福祉協議会、地区社会福祉協議会

自治会、福祉協力員、民生委員・児童委員、主任児童委員、地域包括支援センター

障害者相談支援センター、中間支援施設、ボランティア、学生 など

6 参加費

無料

7 申込み

下記 URL または QR コードから申込フォームにアクセスし、令和5（2023）年10月20日（金）までにお申し込みください。

（申込フォーム）<https://forms.gle/ayfTSEdDSxcGLBYp6>



8 内容(予定)

時間	内容
13:30~13:40	■開会、オリエンテーション
13:40~14:40	■基調講演 「“住民主体”の身近な地域の支え合いについて ～いくつになっても暮らしつづけていまち～」 “住み慣れた地域でいつまでも暮らしつづけてい”そのためにカギとなるのが、身近な地域の住民同士の支え合いです。どのようなきっかけで支え合いが生まれるのか、長く続けられる秘訣はどこにあるのか？考えます。 【講師】ご近所福祉クリエイション 酒井 保 氏
14:40~14:50	■休憩
14:50~16:30	■実践発表／パネルディスカッション 実践① 共生型常設型居場所「TAKU-TAKU」 常設型「地域のおしゃべりカフェ TAKU-TAKU」。ランチやお茶をしながらおしゃべりしたり、無料の運動講座に参加するなど、いつでも誰でも気軽に立ち寄れる“まちの憩所”です。 発表では、居場所を立ち上げたきっかけや現在の活動についてお話をいただきます。また、行政の立場からも居場所の意義や行政としての今後の取り組みについて報告していただきます。 代表 横山 智子 氏 運営スタッフ 大山 純子 氏 さくら市役所 健康福祉部 高齢課 主事 佐藤 充 氏 実践② G・小さな支え合い 「G・小さな支え合い」では、住民同士がお互いに困っていることを助け合いながら、安心して歳をとっていける地域づくりを目指しています。 支援者会員と利用者会員がおり、コーディネーターの面談を経て会員登録をする仕組みです。外出活動支援や屋内活動支援、屋外活動支援があります。 発表では、取り組みをはじめたきっかけや運営の仕組みについてお話ししていただきます。 代表 杉本 賢蔵 氏 副代表 荒木 純子 氏 那須町社会福祉協議会 第1層生活支援コーディネーター 木下 博之 氏 【コーディネーター】ご近所福祉クリエイション 酒井 保 氏
16:30	■閉会

(講師紹介) 酒井 保 (さかい たもつ) 氏

1961年 広島生まれ。知的障がい者施設職員、社会福祉協議会福祉活動専門員、認知症グループホーム・小規模多機能施設の施設長職を経て、2014年8月に『ご近所福祉クリエイション』を創設(主宰)。講演・執筆活動を行っている。イラストレーターとしても活動中。『つながりを切らない情報・交流ネットワーク』
<https://www.t-net.online/> に「週刊マンガつながる通信」を掲載。環境新聞社発行「月刊ケアマネジメント」に「地域から始める包括ケア」を連載(2017年1月から2018年4月)。

9 問合せ/お申込み先

社会福祉法人栃木県社会福祉協議会 地域福祉部 地域福祉・ボランティア課(担当:品田)

(TEL) 028-622-0525 (FAX) 028-621-5298 (Mail) tiikiv@tochigikenshakyo.jp



“住民主体”の 2023 地域支え合い推進フォーラムinとちぎ

日時：令和5年11月6日（月）13：30～16：30（13：00受付開始）

場所：とちぎ福祉プラザ 1階 多目的ホール（栃木県宇都宮市若草1-10-6）

対象者：地域活動に興味のある方 ＊参加費無料 ＊定員150名（先着順）

超高齢社会では、いくつになっても住み慣れた地域で自分らしい生活ができるよう住まい、医療、介護、介護予防・生活支援が一体的に提供される「地域包括ケアシステム」の構築が進められています。

住民一人ひとりが地域を取り巻く状況や課題を共有し、自分らしい暮らしの実現に向けて主体的に活動し、地域で支え合う地域住民による「お互いさま」の取組がより求められています。

本フォーラムは、県内の“住民主体”による支え合いの活動実践を交え、地域住民の身近で自然な支え合いの大切さを学び、広げて行くことを目的に開催します。

実践発表① 共生型常設型居場所 「TAKU-TAKU」@さくら市



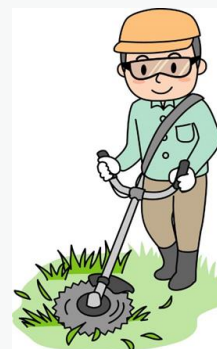
常設型「地域のおしゃべりカフェ TAKU-TAKU」ランチやお茶をしながらおしゃべりしたり、無料の運動講座に参加するなど、いつでも誰でも気軽に立ち寄れる“まちの休憩所”です。

実践発表② G・小さな支え合い

@那須町



買い物や通院支援、草刈り支援等日常生活を助け合い



「G・小さな支え合い」では、住民同士がお互いに困っていることを助け合いながら、安心して歳をとっていただける地域づくりを目指しています。

お申込み／問合せ先

▼参加申込（Googleフォーム）

<https://forms.gle/ayfTSEdDSxcGLBYp6>

栃木県社会福祉協議会 地域福祉・ボランティア課 TEL028-622-0525

10/20(金)申込×切





“住民主体”の地域支え合い推進フォーラムinとちぎ

【基調講演講師・MC】酒井 保氏（ご近所福祉クリエイター）

時間

内容

13:30～

開会・オリエンテーション

13:40～

基調講演

「“住民主体”の身近な地域の支え合いについて

～いくつになっても暮らしつづけたいまち～

“住み慣れた地域でいつまでも暮らしつづけたい”そのためにカギとなるのが、身近な地域の住民同士の支え合いです。どのようなきっかけで支え合いが生まれるのか、長く続けられる秘訣はどこにあるのか？について考えます。

14:40～

休憩

14:50～

実践発表／パネルディスカッション

実践① 共生型常設型居場所「TAKU-TAKU」

常設型「地域のおしゃべりカフェ TAKU-TAKU」。ランチやお茶をしながらおしゃべりしたり、無料の運動講座に参加するなど、いつでも誰でも気軽に立ち寄れる“まちの休憩所”です。

発表では、居場所を立ち上げたきっかけや現在の活動についてお話をいただきます。また、行政の立場からも居場所の意義や行政としての今後の取り組みについて報告していただきます。

代表 横山 智子 氏

運営スタッフ 大山 純子 氏

さくら市役所 健康福祉部 高齢課 主事 佐藤 充 氏

実践② G・小さな支え合い

「G・小さな支え合い」では、住民同士がお互いに困っていることを助け合いながら、安心して歳をとっていける地域づくりを目指しています。

支援者会員と利用者会員がおり、コーディネーターの面談を経て会員登録をする仕組みです。外出活動支援や屋内活動支援、屋外活動支援があります。

発表では、取り組みをはじめたきっかけや運営の仕組みについてお話ししていただきます。

代表 杉本 賢蔵 氏

副代表 荒木 純子 氏

那須町社会福祉協議会 第1層生活支援コーディネーター 木下 博之 氏

16:30

閉会

～講師の御紹介～

酒井 保（さかい たもつ）氏

1961年広島生まれ。知的障がい者施設職員、社会福祉協議会福祉活動専門員、認知症グループホーム・小規模多機能施設の施設長職を経て、2014年8月に『ご近所福祉クリエイション』を創設（主宰）。講演・執筆活動を行っている。イラストレーターとしても活動中。『つながりを切らない情報・交流ネットワーク』<https://www.t-net.online/>に「週刊マンガつながる通信」を掲載。環境新聞社発行「月刊ケアマネジメント」に「地域から始める包括ケア」を連載（2017年1月から2018年4月）。

